

CITIZEN

2021年度（2022年3月期）  
第3四半期決算説明会

---

シチズン時計株式会社  
2022年2月10日

本プレゼン資料における将来予想は、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は様々な要因により大幅に異なる可能性がありますことをご承知おき下さい。なお、億円未満は切り捨てになっています。

## 2021年度第3四半期業績概要

---

広報IR担当の古川です。

2021年度第3四半期業績につきまして、私からご説明いたします。

## 2021年度第3四半期（累計）実績

- 時計事業：北米市場を中心に想定を上回る（前年比 +43%増収）
- 工作機械事業：部材調達難の中、想定より生産が進捗し、売上高は過去最高（前年比 +85%増収）
- 主要2事業の売上高増により、営業利益196億円（前年比 +257億円増益）

## 2021年度通期業績予想

- 第3四半期業績の上振れを踏まえ、通期予想を上方修正
- 売上高 2,775億円（前回予想比 +45億円）  
営業利益 185億円（前回予想比 +13億円）

まず、第3四半期累計実績のポイントですが、

時計事業は北米を中心に好調が継続し、前年比43%の増収となりました。工作機械事業は、部材調達に遅れが生じる状況にありましたが、想定よりも生産が進捗し、前年比85%の増収となり、売上高は過去最高となりました。主要2事業の増収に伴いまして、営業利益は196億円と、前年比257億円の大幅増益となりました。

また、第3四半期の業績の上振れを踏まえ、2021年度通期業績予想を修正しています。

売上高は、前回予想比45億円増の2,775億円、  
営業利益は、前回予想比13億円増の185億円としました。

## 2021年度第3四半期（累計）連結業績概要

CITIZEN

(単位：億円)	2020年度	2021年度	前年同期比	
	9カ月累計実績	9カ月累計実績	増減額	増減率
売上高	1,511	2,156	+644	+42.7%
営業利益	▲ 60	196	+257	-
営業利益率	▲4.0%	9.1%	-	-
経常利益	▲ 26	223	+249	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	▲ 219	171	+391	-
為替レートの	¥106/USD ¥122/EUR	¥111/USD ¥131/EUR	-	-

4

第3四半期累計期間における連結業績ですが、

売上高は、2,156億円、前年比42.7%増、

営業利益は、196億円、前年比257億円の増益、営業利益率は9.1%となりました。

経常利益は、223億円、前年比249億円の増益、

親会社株主に帰属する四半期純利益は171億円、前年比391億円増といずれも増益となりました。

## 2021年度第3四半期（累計）セグメント別業績推移

CITIZEN

(単位：億円 / %：営業利益率)

売上高	2020年度	2021年度	前年同期比	
	9か月累計実績	9か月累計実績	増減額	増減率
■ 時計事業	717	1,028	+311	+43.4%
■ 工作機械事業	325	600	+275	+84.8%
■ デバイス事業	332	378	+46	+13.9%
■ 電子機器他事業	135	147	+11	+8.7%
合計	1,511	2,156	+644	+42.7%
営業利益				
■ 時計事業	▲38 (▲5.3%)	103 (10.1%)	+142	-
■ 工作機械事業	14 (4.6%)	94 (15.7%)	+79	+534.0%
■ デバイス事業	▲7 (▲2.3%)	21 (5.6%)	+28	-
■ 電子機器他事業	1 (1.1%)	10 (7.2%)	+9	+603.9%
消去又は全社	▲31	▲33	▲2	-
合計	▲60 (▲4.0%)	196 (9.1%)	+257	-

5

セグメント別の業績になりますが、  
 時計事業が43%増収、工作機械事業は85%増収となり、主力2事業が牽引し、  
 連結合計では前年比43%の増収、257億円の増益となりました。  
 また、全ての事業セグメントが増収増益となっています。

## 2021年度第3四半期（10－12月期）連結業績概要

CITIZEN

(単位：億円)	2020年度 3Q実績	2021年度 3Q実績	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	621	798	+177	+28.6%
営業利益	21	89	+67	+308.6%
営業利益率	3.5%	11.2%	-	-
経常利益	34	102	+67	+192.7%
親会社株主に帰属する四半期純利益	▲ 4	73	+77	-
為替レートの	¥105/USD ¥124/EUR	¥113/USD ¥130/EUR	-	-

6

ここからは、第3四半期の業績および事業概況についてご説明します。

売上高は、前年比28.6%増の798億円となりました。

営業利益は、前年比67億円増の89億円、営業利益率は11.2%となりました。

経常利益は、前年比67億円増の102億円、

親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年比77億円増の73億円となりました。

## 2021年度第3四半期（10-12月期）セグメント別業績推移 **CITIZEN**

(単位：億円 / %：営業利益率)

売上高	2020年度 3Q実績	2021年度 3Q実績	前年同期比	
			増減額	増減率
■ 時計事業	336	407	+71	+21.3%
■ 工作機械事業	117	217	+100	+85.0%
■ デバイス事業	119	123	+4	+3.4%
■ 電子機器他事業	47	49	+1	+3.7%
合計	621	798	+177	+28.6%
営業利益				
■ 時計事業	15 (4.6%)	55 (13.6%)	+40	+257.0%
■ 工作機械事業	8 (7.6%)	35 (16.2%)	+26	+294.8%
■ デバイス事業	3 (2.8%)	5 (4.8%)	+2	+76.0%
■ 電子機器他事業	3 (7.0%)	3 (6.4%)	▲0	▲5.5%
消去又は全社	▲9	▲10	▲1	-
合計	21 (3.5%)	89 (11.2%)	+67	+308.6%

7

セグメント別に見てみますと、

時計事業は、21.3%の増収、営業利益は40億円の増益、  
 工作機械事業は、85.0%の増収、26億円の増益、  
 デバイス事業は、3.4%の増収、2億円の増益、  
 電子機器他事業は3.7%の増収となりました。

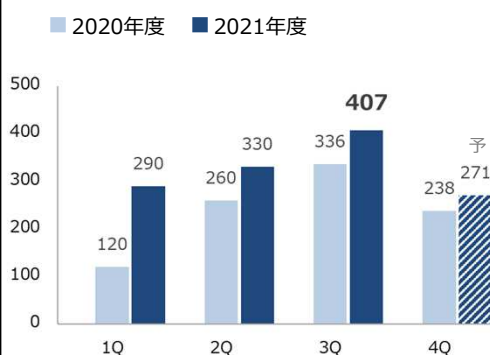
完成品販売

- 海外市場：北米の好調が引き続き業績を牽引したほか、欧州・中国も底堅さを保つ
- 国内市場：人流の回復に伴い消費活動も緩やかに改善

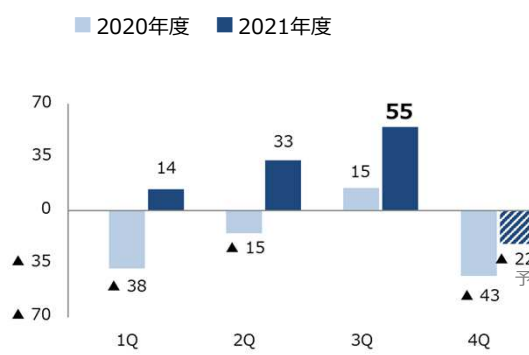
ムーブメント販売

- 機械式ムーブメントが堅調継続。アナログクォーツも多針系が好調維持

売上高(億円)



営業利益(億円)



それでは、事業別の概況をご説明します。

まず、時計事業ですが、第3四半期は売上高は407億円、前年比21.3%増となり、見通しを上回る結果となりました。

完成品販売は、引き続き北米において個人消費が好調に推移し全体を牽引した他、欧州、中国においても新型コロナウイルスの感染の影響が懸念される中、堅調に販売が推移しました。

一方、国内は、人流の回復に伴い11月頃から消費も改善に向かい前年比増収となりましたが、緩やかな回復に留まっています。

ムーブメント販売につきましては、引き続き機械式ムーブメントや、多針系など高付加価値のクォーツムーブメントが販売を伸ばしました。

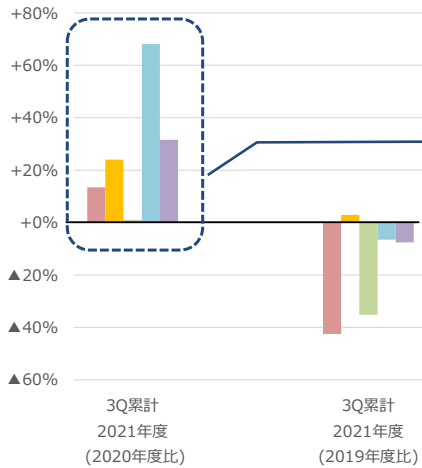
営業利益は増収に加え、販売増に伴う製造の稼働率向上などにより、営業利益は55億円と、前年比40億円の増益となりました。

第4四半期につきましては、オミクロン株の感染拡大の影響を織り込み、主に国内の売上高見通しを引き下げており、売上高は271億円の見通しとしました。



■ 前年同期及び前々年同期比増減率

■ 国内 ■ 中国 ■ 他アジア ■ 北米 ■ 欧州



前年同期(2020年度3Q累計)比増減率

経済活動の再開状況によって地域差はあるものの、引き続き回復傾向で推移

- 国内：人流回復を受け緩やかに回復
- 中国：景況感は悪化も実店舗・EC販売が堅調維持
- 他アジア：緩やかな回復傾向を維持
- 北米：EC販売及び実店舗の回復を受け好調継続
- 欧州：経済活動の再開に伴い主要地域が回復

※ 北米のみCITIZENブランドとBULOVAブランドを合算した増減。その他の地域はCITIZENブランドのみの増減。  
 ※ 他アジアは中国を除いたアジア地域  
 ※ 現地通貨ベースの増減率

こちらは、地域別の売上高増減率のグラフですが、9カ月累計期間の比較になります。

左側の棒グラフが前年対比になります。

赤は国内ですが、前年比1割強の回復となりました。

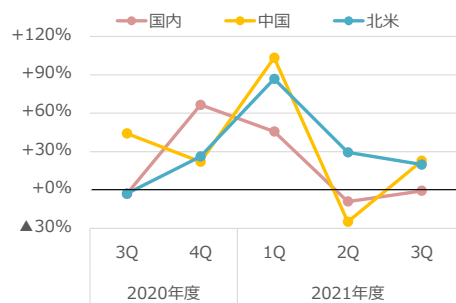
黄色の中国は、景況感の悪化がみられましたが、前年比増収となり、その他アジア地域は微増となりました。

水色の北米は、EC販売に加え、デパート、ジュエリーチェーンなど実店舗販売の回復が継続しており、前年比6割以上の高い伸び率となりました。

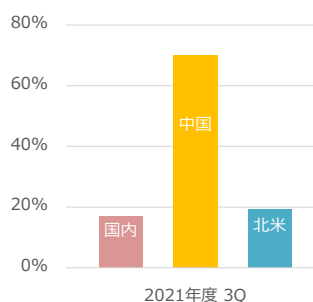
薄紫のグラフは欧州です。オミクロン株の影響も見られましたが、主要国において回復傾向を維持しました。

右側の棒グラフは、2019年度対比になります。国内およびアジア地域の回復に遅れが見られる一方で、中国、北米、欧州はほぼ2019年並みに戻っています。

■ EC販売 前年同期比増減率



■ EC比率



■ EC販売 3Q前年同期比増減率

- 国内 ▲1% 限定品は堅調に推移したものの、経済活動正常化に向けた動きは弱く伸び悩み
- 中国 +23% コラボモデルを中心に好調に推移
- 北米 +20% EC販売強化に向けた取り組みが寄与し、直販ECは限定製品を中心に好調継続。既存ECも伸張

※ 国内、中国はCITIZENブランドのみの増減。北米はCITIZENブランドとBULOVAブランドを合算した増減  
 ※ 増減率、EC比率はいずれも現地通貨ベース

こちらは、主要3地域のEC販売、前年同期比の増減率のグラフになっています。

第3四半期のEC販売額は、国内は主カブランドのxCの限定品などが堅調に推移したものの前年並みでしたが、北米や、コラボ商品に注力した中国は前年比増収となりました。

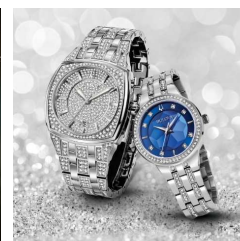
北米市場の復調

- 高単価製品の販売が伸びており、平均単価は2018年度以降2割以上の上昇
- EC販売が伸長。特に直販EC販売では、他の流通では購入できない限定品が好評
- 宝飾チェーン、百貨店流通などの実店舗も消費活動の回復に伴い好調

CITIZEN



BULOVA



11

主力の北米市場について、もう少しご説明しますと、

2021年のホリデーシーズンは、セルイン、セルスルーともに好調を維持し、大手流通の年末在庫も前年比で減少しており、健全な市況が続いています。また、高単価製品の販売が伸びており、平均単価は、2018年度と比較しますと、2割以上、上昇しています。

直販EC販売に注力した他、主要流通の宝飾チェーンやデパートにおける販売が大きく伸長しています。

## 『シチズン クロスシー』 「daichi collection」

- 『シチズン クロスシー』から未来に続く広い大地をコンセプトにした新たなコレクション「daichi collection」を2021年10月から発売
- 希望小売価格：  
88,000円～91,300円（税抜価格80,000円～83,000円）



## 『カンパノラ』 コスモサイン20周年

- 『カンパノラ』から、天体の運行を表示する人気シリーズ「コスモサイン」の限定モデルを「シチズン フラグシップストア」及び「シチズン プレミアムドアーズ」にて2021年10月発売
- 希望小売価格 330,000 円（税抜価格300,000円）
- 限定100本



12

時計事業のトピックスとして、第3四半期に発売開始した商品をご紹介します。

主カブランドである『シチズンクロスシー』では、新たなコレクション「daichi collection」をラインアップに加えました。太陽と月をモチーフにしたサン&ムーン機能の小窓を配置するなど特徴的なデザインが好評を得ています。

また、『カンパノラ』からはコスモサイン20周年を記念した限定モデルを100本、発売しましたが、既に完売となっています。

## 『The CITIZEN』 Iconic Nature Collection発売

- 『The CITIZEN』 から年差±5秒の高精度光発電エコ・ドライブムーブメントを搭載し、土佐和紙を用いた美しいグラデーション文字板で表現した「Iconic Nature Collection」4モデルを2022年2月より発売開始予定
- 希望小売価格：各385,000円（税抜価格350,000円）
- 限定250本×4モデル



## 『CITIZEN ATTESA』ブランド誕生35周年

- 『CITIZEN ATTESA』ブランド誕生35周年記念第1弾として、日産自動車株式会社が販売する『日産フェアレディ Z』とのコラボレーションモデル2モデルを2022年3月発売開始予定
- 希望小売価格：165,000円（税抜価格150,000円）
- 限定1,700本×2モデル



13

第4四半期に発売する主な商品としては、CITIZENブランドの最上位モデル『The CITIZEN』から、土佐和紙を用いた「Iconic Nature Collection」4モデルを今月下旬から発売します。また、『シチズン アテッサ』では、ブランド誕生35周年記念、第1弾として、『日産フェアレディ Z』とのコラボレーションモデル、2モデルを3月に発売予定です。

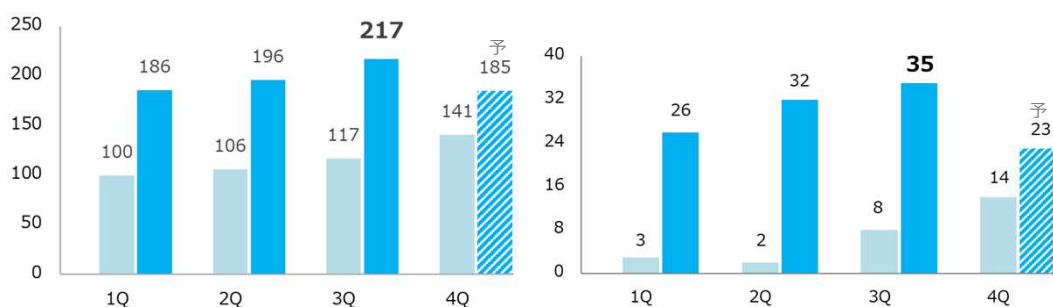
- 国内市場：半導体・建機・住宅設備関連など幅広い業種が好調に推移し、増収
- 海外市場：欧州が旺盛な設備投資需要を受け、増収。中国も好調継続

売上高(億円)

営業利益(億円)

■ 2020年度 ■ 2021年度

■ 2020年度 ■ 2021年度



14

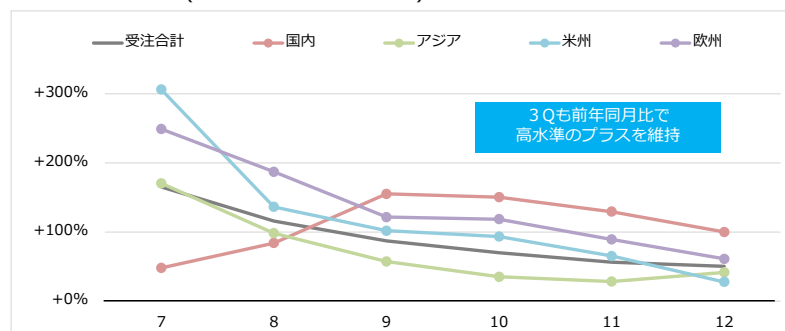
続いて、工作機械事業の業績概況をご説明します。

第3四半期の売上高は217億円、前年比85%増、営業利益は35億円、前年比26億円の増益となりました。

部材調達の遅れがみられる中、想定以上の生産、出荷が達成され、見通しを大きく上回りました。特に、欧州向け、中国向けの売り上げを伸ばしています。

なお、第4四半期は、受注残は増加しているものの、部材調達難の影響がより強まる懸念があり、従来の見通しから大きな変更はせず、売上高は185億円、営業利益は23億円の見通しとしています。

■ 前年同月比増減率(3カ月移動平均受注台数)



■ 3Q前年同期比増減率(四半期受注台数)

- 受注合計 +50% 2Qまでの受注水準から一服したものの、経済活動の再開を受け高水準を維持
- 国内 +100% 半導体、建機など全体的に好調、自動車は減産影響により回復遅れ
- アジア +42% 医療、自動車、スマートフォン関連など全体的に好調な受注を獲得
- 米州 +28% 医療関連を中心に積極的な設備投資が継続
- 欧州 +61% ドイツ、イギリス、イタリアなど幅広い地域で旺盛な需要が継続

こちらは、地域別の受注状況にですが、折れ線グラフは、受注台数の3カ月移動平均、前年同月比増減率です。

下の表は、第3四半期の受注台数の前年比、伸び率になります。  
 海外に比べて回復が遅れている国内は、半導体、建機をはじめ全般的に回復し、前年比100%増、  
 中国・アジアは、医療、自動車、スマートフォン関連など好調を維持し、前年比42%増、  
 米州は、医療関連を中心に積極的な設備投資が継続しており、前年比28%増、  
 欧州は、ドイツ、イギリス、イタリアなど幅広い地域で引き続き旺盛な受注があり、前年比61%増、  
 全体の受注台数は、前年比50%増となり、高水準の受注が継続しました。

■ 本社軽井沢工場に新棟（精密加工工場）を建設

- 中国新工場の建設やタイ工場の増床など、段階的に生産能力を高めており、2023年には全生産拠点での本体生産能力が4割増（2021年度比）となる見込み
- 増強した本体生産能力に合わせ、スピンドルなどの基幹部品を確保するため、本社工場の隣接地に精密加工工場を新設し、基幹部品の生産能力を6割増強
- 新設する精密加工工場は、ロボットやAGV（無人搬送車）などを活用し自動化・省力化を図るほか、周辺地域の環境保護にも取り組む



左奥：本社工場 右手前：精密加工工場

■ 精密加工工場概要

所在地：長野県北佐久郡御代田町御代田4107-6 本社敷地内東側  
 建物面積：4,100㎡ 着工：2022年4月（予定） 竣工：2023年3月（予定）

工作機械事業のトピックスとしては、

スピンドルなど基幹部品の生産能力増強のため、今年4月からシチズンマシナリー本社軽井沢工場に新棟の建設をスタートします。竣工は2023年3月を予定しています。ロボットや無人搬送車などを活用し、自動化、省力化を進める他、環境配慮型の工場を目指します。

昨年建設した中国新工場や、現在取り組んでいるタイ工場の増床など段階的に生産能力の向上を進めており、2023年には全生産拠点の本体生産能力は現状から4割増となる見込みです。



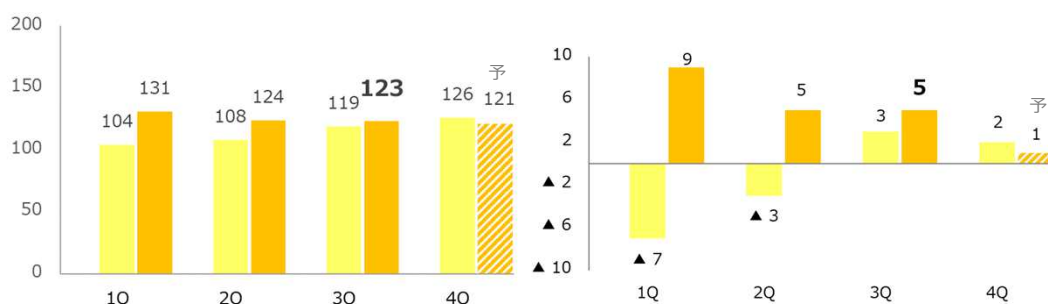
- 精密加工部品：自動車部品は自動車メーカーの減産等の影響を受け、減収  
スイッチは減収となるものの2Qより回復
- オプトデバイス：照明用LED、車載用LEDが回復もその他一般向けLEDは伸び悩み
- その他部品：水晶デバイスや小型モーターが好調に推移

売上高(億円)

営業利益(億円)

■ 2020年度 ■ 2021年度

■ 2020年度 ■ 2021年度



17

続いて、デバイス事業です。

第3四半期売上高は123億円、前年比3.4%増となりました。営業利益は5億円、前年比2億円の増益となりました。

デバイス事業全体としては、ほぼ見通し通りの結果となっております。

精密加工部品のうち自動車部品は、自動車メーカーの減産の影響を受け、見通し対比では若干の未達となりましたが、スイッチについては、前年比では減収となるものの、第2四半期比では回復し、黒字となっています。

オプトデバイスのうち照明用LEDや車載用LEDが回復したものの、その他一般向けLEDは伸び悩み、横ばいとなりました。

その他の部品は、引き続き水晶デバイスが通信関連向けの需要増などで増収となった他、小型モーターも好調を継続しました。

第4四半期の見通しにつきましては、自動車部品は回復傾向にあるものの、チップLEDなどの下振れを織り込み、売上は121億円、営業利益は1億円としています。

2021年度下期及び通期連結業績予想

---

## 2021年度 下期及び通期連結業績予想

CITIZEN

(単位：億円)	2021年度11/11予想		2021年度2/10予想		前回予想比増減	
	下期	通期	下期	通期	下期	通期
売上高	1,373	2,730	1,418	2,775	+45	+45
営業利益	65	172	78	185	+13	+13
営業利益率	4.7%	6.3%	5.5%	6.7%	-	-
経常利益	70	190	84	205	+15	+15
親会社株主に帰属する当期純利益	46	145	56	155	+10	+10
為替レートの	¥110/USD ¥125/EUR	¥110/USD ¥128/EUR	¥112/USD ¥128/EUR	¥111/USD ¥129/EUR	-	-

19

最後に、上方修正しました通期業績予想について、改めて数値をご説明しますと、

売上高は、前回予想比45億円増の2,775億円、  
 営業利益は、13億円増の185億円、営業利益率は6.7%、  
 経常利益は、15億円増の205億円、  
 親会社株主に帰属する当期純利益は、10億円増の155億円の見通しです。

尚、第4四半期の為替レートは、米ドル 110円、ユーロ 125円と前回予想から変更していません。

## 2021年度 下期及び通期セグメント別業績予想

CITIZEN

		(単位：億円 / %：営業利益率)		2021年度11/11予想		2021年度2/10予想		前回予想比増減	
		下期	通期	下期	通期	下期	通期	下期	通期
売上高	■ 時計事業	670	1,290	679	1,300	+10	+10		
	■ 工作機械事業	360	744	403	786	+42	+42		
	■ デバイス事業	251	507	244	500	▲7	▲7		
	■ 電子機器他事業	90	189	90	189	+0	+0		
	合計	1,373	2,730	1,418	2,775	+45	+45		
営業利益	■ 時計事業	28 (4.2%)	76 (5.9%)	32 (4.8%)	81 (6.2%)	+5	+5		
	■ 工作機械事業	50 (13.9%)	109 (14.7%)	59 (14.7%)	118 (15.0%)	+9	+9		
	■ デバイス事業	8 (3.2%)	23 (4.6%)	7 (3.0%)	22 (4.5%)	▲1	▲1		
	■ 電子機器他事業	3 (3.9%)	11 (5.8%)	3 (3.9%)	11 (5.8%)	+0	+0		
	消去又は全社	▲24	▲47	▲24	▲47	+0	+0		
	合計	65 (4.7%)	172 (6.3%)	78 (5.5%)	185 (6.7%)	+13	+13		

20

セグメント別の内訳はご覧の通りですが、事業別の概況は先ほどご説明した通りです。

以上で、私からの説明を終わります。  
ありがとうございました。

**CITIZEN**

## 2021年度第3四半期(累計)セグメント別業績推移(2019年度比)

CITIZEN

(単位：億円 / %：営業利益率)

	2019年度	2021年度	前々年同期比	
	9ヵ月累計実績	9ヵ月累計実績	増減額	増減率
売上高				
■ 時計事業	1,183	1,028	▲ 154	▲ 13.1%
■ 工作機械事業	451	600	+ 148	+ 33.0%
■ デバイス事業	439	378	▲ 60	▲ 13.8%
■ 電子機器他事業	174	147	▲ 26	▲ 15.4%
合 計	2,249	2,156	▲ 93	▲ 4.1%
営業利益				
■ 時計事業	82 (7.0%)	103 (10.1%)	+ 21	+ 25.4%
■ 工作機械事業	62 (13.8%)	94 (15.7%)	+ 31	+ 51.1%
■ デバイス事業	12 (2.9%)	21 (5.6%)	+ 8	+ 64.2%
■ 電子機器他事業	0 (0.1%)	10 (7.2%)	+ 10	-
消去又は全社	▲ 45	▲ 33	+ 12	-
合 計	112 (5.0%)	196 (9.1%)	+ 84	+ 74.9%

- コロナ前(2019年度)と比較し、売上高は近い水準まで回復、営業利益は大幅に伸長
- 全セグメントでコロナ前の営業利益を上回る